

小林八束1遺跡(久喜市)

おばやしはっそく

ここは平成25年度第3回遺跡見学会の会場/埼玉県教育委員会主催





協力の埼玉県埋蔵文化財調査事業団の車



発掘された資料の展示



水場遺構から出土した木製品







さあ、班に分かれて現地へ出発





その昔、このグラウンドは川であったようだ/正面の向こう側に縄文時代後期の住居跡、古墳時代前期の水場遺構、住居跡、方形周溝墓などが発見された



ここが発掘現場





既に別の班が説明を受けている



前日雨が降ったため、水が溜っている



前方の斜面から下りて行く







中央の方が案内人(調査事業団の関係者)







さて、この右手が古墳時代前期の「水場遺構」/末尾のパンフレット参照





縄文時代の住居跡



左手前は縄文時代の住居跡



こちらには古墳時代前期の住居跡と方形周溝墓が点在する



4号方形周溝墓



表示板には方形周溝墓の「主体部」と記されている







5号方形周溝墓





この方形周溝墓は表土を盛り上げて覆っている跡が地層に残っている/ある意味古墳に近い形態か



地層の断面に盛り上げた跡が残っている



それを説明する案内人





8号方形周溝墓



左手が8号方形周溝墓、右手は6号方形周溝墓



手前が8号方形周溝墓、その向こうが6号方形周溝墓、更に向こうが7号方形周溝墓



7号方形周溝墓



竪穴住居跡





これで一通り説明は終了





小林八東1遺跡では、小林調節池の改修工事に先立ち、発掘調査を行っています。遺跡は、大宮台地と加須低地が接する地域に位置します。現在、周辺は水田の広がる平坦な景観となっていますが、調査の結果、古墳時代前期以前は台地と谷が複雑に入り組む、起伏にとんだ地形であったことが明らかになりました。今回の調査で発見された遺構は、縄文時代後期の住居跡、古墳時代前期の水場遺構、住居跡、方形周溝墓などです。

主催 埼玉県教育委員会
 共催 久喜市教育委員会
 協力 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

古墳時代：水場遺構

水場遺構は、河川が入江のように湾入した谷地形と、その縁を掘削した、階段状の岸壁口から成ります。谷の中心部には、杭と板材を組み合わせた木組みの施設が見つかりました。その性格については、よくわかりませんが、多量の板材や農具が発見されていることから、槌橋や木材を加工するための作業場などが考えられます。



水場遺構は、その後、捨てられた木材や河川の氾濫土によって次第に埋没してしまいました。谷の断面をみると、埋没する過程で、榛名山二ツ岳の火山灰が堆積していることが明らかになりました。

噴火が起こったのが、古墳時代後期(およそ1,500年前)頃であることから、水場遺構や遺物はそれ以前のものであることがわかります。

—Hr-FA 榛名山二ツ岳火山灰



水組み施設(土壌から)



水組み施設(土壌から) 杭脚に板を差し込むようにして造られています。



たくさんの木製品が腐らずに残っていました。

水場遺構から出土した土器や木製品



広口壺



小型壺



埴



完成品



未成品

鎌 土を耕す道具です。まだ穴が開けられていないことから、製作途中であることがわかります。



えぶり 土をならす道具です。



横槌 穀物について脱穀する道具です。



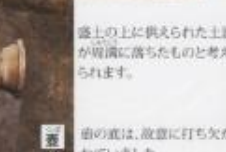
縄文時代

小林八束1遺跡では、これまでの調査で縄文時代早期から後期の遺構や遺物が発見されています。今回の調査では、縄文時代後期の住居跡、伊跡などが発見されました。

- 住居跡など (縄文時代後期) (およそ4,000年前)
- 水場遺構 (縄文時代前期) (およそ1,700年前)
- 住居跡 (縄文時代中期) (およそ1,750年前)
- 方形周溝墓 (古墳時代前期) (およそ1,700年前)

古墳時代：方形周溝墓

方形周溝墓は、弥生時代から古墳時代に造られた石墓です。溝を四角く掘り、その内側に盛土をします。死者は盛土に掘られた穴に埋葬されました。本遺跡のように盛土が残ることは稀で、貴重な例といえます。



古墳時代：住居跡

古墳時代の住居跡は、調査区の広い範囲にわたって分布しており、大規模な集落であったと考えられます。一部の住居跡が方形周溝墓に埋まっていることから、集落跡の方が古いことが明らかになりました。生活の場から、墓域の場へと変化したことがうかがえます。



住居跡には、当時の人々が日常生活に使用した土器が残っていました。

久喜市菖蒲町

平成25年度 第3回遺跡見学会
平成25年 7月27日(土)

水田の下で発見された古墳時代前期の方形周溝墓と水場遺構

おばやしはっそく

小林八束1遺跡 (第3・4次)

第3・4次調査区

第2次調査区
(平成22~23
年度調査)



縄文時代の谷
水場遺構



ろおと
炉跡



炉跡から出土した縄文土器



じゆうきよあと
住居跡

住居跡は円形で、小さな柱穴ちゆうけつがたくさん並んでいます。掘り込みがわずかに残っていました。住居跡のおよそ半分は、古墳時代前期に水場遺構くしまくを掘削する際に壊されていました。



方形周溝
ねの土器
しょうか。

ミニチュア土器



ほうけいしゅうこうば
古墳時代：方形周溝墓

方形周溝墓は、弥生時代から古墳時代に造られたお墓です。溝を四角く掘り、その内側に盛土をします。死者は盛土に掘られた穴に埋葬されました。
本遺跡のように盛土が残ることは稀で、貴重な例といえます。



壺



壺

盛土の上に供えられた土器が周溝に落ちたものと考えられます。

壺の底は、故意に打ち欠かれています。

壺の周溝から出土した、手づくです。葬送の際に使われたので



6号方形周溝墓



3号方形周溝墓 盛土の高さは、およそ80cmです。



5号方形周溝墓 周溝からは土器が発見されました。

みずばいこう 古墳時代：水場遺構

水場遺構は、河川が入江のように湾入した谷地形と、その縁を掘削した、階段状の昇降口から成ります。谷の中心部には、杭と板材を組み合わせた木組みの施設が見つかりました。その性格については、よくわかりませんが、多量の板材や農具が発見されていることから、さんばし 栈橋や木材を加工するための作業場などが考えられます。



— Hr-FA 榛名二ツ岳火山灰

水場遺構は、その後、捨てられた木材や河川の氾濫土によって次第に埋没してしまいました。谷の断面をみると、埋没する過程で、はるなさん ふたつだけ 榛名山二ツ岳の火山灰が堆積していることが明らかになりました。

噴火が起こったのが、古墳時代後期(およそ1,500年前)頃であることから、水場遺構や遺物はそれ以前のものであることがわかります。



木組み施設(北東から)



木組み施設(南から)
杭列に板を差し込むようにして造られています。



たくさんの木製品が腐ら
ずに残っていました。

参考ホームページ

<http://www.saimaibun.or.jp/h25/2995.htm>

